

スポンジボールテニスマナーについて

「ルールの前にマナーあり」といわれるように、スポーツはルールとマナーによってなりたっていると思います。

ルールとは、試合をする上での決められた約束事ですから、必ず守らなければなりません。違反をすれば当然ペナルティーが科せられます。

一方マナーは、相手を尊敬し、不快な気分させないよう思いやることであると思います。お互いが気持ちよくプレーするためにこのようなマナーができたのです。

気心の知れた友達とスポンジボールテニスをするときには、あまり気にしなくてもいい事柄ですが、試合や他のクラブでプレーするときなどは、礼儀正しくこのマナーを守っておくと、お互いが気持ちよくプレーできると思います。

みんなが楽しくプレーできるのは、運営してくれる役員さんやコーチ・チームメイト、家族の理解があってこそできることなので、常に感謝の気持ちを持ち、相手をリスペクト（尊重）する言動や行動を心がけましょう。

ここに記載したことがらは、一般的に言われていることをあげましたが、その場の状況や雰囲気・相手などによって変わることもありますので十分注意しましょう。

◇ 項 目

1. 事前の準備等について
2. 服装について
3. ボールの受け渡しについて
4. 練習のとき
5. 試合（ゲーム）のとき
5. 応援するとき
7. 最後に

1. 事前の準備等について

練習や試合の前には、会場設営や用具の確保など必ず事前の準備が必要です。

会場の予約、当日のカギの借用、用具やボールの確保、会場のネット張りや窓の開閉、使用後の後片づけや清掃、カギの返却と事後報告など数えればきりが無いほどの用務があり、誰かが行っています。

クラブは役員だけで運営するのではなく、全員の協力で活動が成立しています。一人ひとりがそのことを自覚して、全員で事前の準備等を行いましょ。誰かがするだろうではなく、皆んなで仕事を分担してスムーズな運営ができるよう心がけ、楽しい雰囲気の中で練習できたら幸いです。

2. 服装について

スポンジボールテニスをするのにふさわしい服装を心がけましょ。

競技に支障をきたしかねないタオルや装飾品類は、危険防止のため身に着けないようにしましょ。また、相手に不快感を与えるような服装で試合を行うことは慎みましょ。

3. ボールの受け渡しについて

相手にボールを渡すときには「ボールいきます」と声をかけてボールを渡しましょ。ボールはワンバウンドして相手を取りやすいように渡しましょ。

距離がある場合は、ラケットで優しく打ちワンバウンドで相手を取りやすいように渡しましょ。

ボールをもらった人は「ありがとうございます」「どうも」等とお礼を言うのがマナーです。声を出さなくてもせめて目礼だけはして感謝の気持ちを伝えましょ。

4. 練習のとき

まず一礼して「お願いします」とあいさつし「ボール行きます」と声をかけラリー練習から入り、最初は打ちやすいボールを丁寧に送りましょ。

慣れてきたら徐々に強いボールや、ボレー・ロブ・スマッシュを交えて交互に練習を続けます。意に反したボールを打った時は手を上げて「すみません」と声とかけましょ。ボールをネットかけた場合は、かけた人が素早く取りに行きましょ。

もし自分が近くにいた場合には、率先して代わりにとって上げましょ。

5. 試合（ゲーム）のとき

試合では、ウォーミングアップの時間が決まっているので、その時間内に一通りのショットを練習することになりますが、時間の制約がある場合は規定どおりに行いましょ。

- **試合の開始**

相手プレイヤーに礼儀を尽くしましょう。お互いにあいさつをして握手をします。まずは正面の対戦相手、次に隣の対戦相手と、その後パートナーと握手をします。

トス（じゃんけん）をしてサーブやエンドを選択します。審判の「プレイボール」のコールがあつてから、プレイヤーは「お願いします」あいさつし試合を開始します。

ラリー中、明らかにカウントが決まってしまった後の強打はいけません。ポイントを取ったとき、自分に対して小さくガッツポーズなどの動作は良いと思いますが、相手選手にこぶしを振り上げたり、大きな声をあげて必要以上のパフォーマンスをすることは慎みましょう。常に相手をリスペクトすることが大切です。

インプレー中に、相手プレイヤーや審判が気づかない反則行為（ネットタッチ・ボールが衣服に触れる・ワンタッチなど）があつた場合は自発的に申告しましょう。ネットインした時は、「ラッキー」等とは言わず「すみません」と謝りましょう。

連続したプレーになるよう心がけ、1ポイントごとに駆け寄って話すなど過度な打ち合わせはしないようにしましょう。

自分がミスをしてラケットを投げたりコートにたたきつけたりしてはいけません。また、パートナーの失敗を非難したり、態度に出すのはやめましょう。

相手の打球がアウトになりそうな時は「アウト」ではなく「ウオッチ」などと言いましょ。

主審の判定とコールは最終で、いったん下された判定は、主審自身が自発的かつ直ちに訂正「コレクション」しない限り覆ること（オーバールール）はありません。

判定に関するルール上の疑問点に関しては、礼儀正しく尋ねることはできますが、それに対する主審の答えにはいさぎよく従いましょう。イン、アウト等の判定には抗議できません。

審判員や役員など試合を支えてくれる人に礼を尽くしましょう。また、試合終了後は感謝の意を表しましょう。

審判技術の問題は、審判の側だけにあるのではなく、選手の側にもあることを心に置き、お互いの思いやりで、審判技術の向上を目指しましょう。

- ・ **チェンジコートの際の礼儀**

チェンジコートの際は時計回りで移動します。審判がいる時は、後ろを通りましょう。ネットをまたぎ越してのチェンジコートは論外です。絶対まねをしないでください。

- ・ **ボールを当てられた**

ゲームは真剣勝負です。スマッシュやボレーで、相手方プレーヤーめがけて打ち込むのは、れっきとした戦術です。

よけられれば、よいのですが、たまにボールが体に当たってしまうこともあります。

そんな場合には、次のようにします。

当ててしまった側は、「すみません！」「大丈夫ですか？」と心を込めてお詫びします。当てられた側はムッとしてはいけません。軽く手をあげることにより、「大丈夫ですよ」と無言で伝えます。

- ・ **ゲームセットでのやりとり**

ゲームが終了したら、「ありがとうございました」とお互いに挨拶しながら、試合開始の時と同じように握手をします。負けてくやしい気持ちがあっても、ゲームが終わったらすがすがしく、握手をしましょう。最後に審判に感謝の気持ちを込めて握手、あいさつをしましょう。

6. 応援する時

応援はプレーをするチームや選手を勇気づけるためです。

相手をプレーヤーのミスを喜んだり「ラッキー」や「もうけ」などの声をかけることは、相手にとっては非常に不愉快なものであり、見苦しい行為です。たとえ勝っても相手チームに不愉快な印象を与えることになれば、自分のチームのプラスにもなりません。

試合中の選手にコート外からのコーチング（指導・助言）は控えましょう。

審判より先にコールしたり、審判の判定に抗議したり中傷したりするのは控えましょう。

好プレーに対しては、敵味方関係なく、惜しみなく拍手をおくりましょう。好敵手が出て、はじめて好ゲームが生まれると言われるように、自分が努力したように相手もまた努力したことを認め、お互いを讃えましょう。

7. 最後に

マナーとは、この言葉や行動は悪いとか、これぐらいは許せる範囲とかではなく、「要はシチュエーションと言葉のニュアンス」であると思います。

相手や周囲の人が不快に思わないよう、常に自分の言動や行動に対して責任をもつことが 必要です。

お互いに気持ちよくプレーしようというスポーツマンシップによってこのような「マナー」が出来てきたのです。皆がこの競技に出会えて良かったと思えるようにしましょう。